

令和 5 年 9 月 21 日現在

機関番号：13701  
研究種目：基盤研究(B)（一般）  
研究期間：2020～2022  
課題番号：20H03910  
研究課題名（和文）医学教育・研修部門の機能、及び専任スタッフの役割とアイデンティティに関する研究

研究課題名（英文）Research on the functions of medical education divisions and the roles and identities of the full-time staffs

研究代表者  
西城 卓也（SAIKI, TAKUYA）  
岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：90508897  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、教育/研修部門の専任スタッフが、業務をどう遂行し、教育職アイデンティティをいかに変容させるのかを探索した。また成功する教育/研修部門と専任スタッフは、いかなる要因・規準でモデル化できるかについても探索的に調査できた。医学教育部門のスタッフを主たる対象として、書物の分析に加え、半構造化インタビューを行いスタッフの認識を主題分析法で分析した。ここまでのデータから得られた要因・規準を抽出し、最終的にはこれからの教育/研修部門のあり方を占うモデルのプロトタイプを同定できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
医学教育の高度化に伴い、近年の医学教育/研修部門の責務はますます複雑化し膨大になる一方である。専任スタッフからは、不安と不満の声が出ている。わが国の働き方を改革せんとする時代に必要な、成功する教育/研修部門及び専任スタッフに必要な機能と役割をモデル化し、教育/研修部門とスタッフの発展に向けた指針のプロトタイプを示唆した意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research project explored how dedicated medical education/training department staff perform their jobs and how they transform their educational professional identities. We were also able to explore what factors and criteria can be used to model successful education/training departments and dedicated staff. In addition to the analysis of written materials, semi-structured interviews were conducted with the staff of the medical education department as the primary target population, and staff perceptions were analyzed using thematic analysis methods. The factors and criteria obtained from the data thus far were extracted, and ultimately a prototype model for the future of the education/training sector was identified.

研究分野：医学教育学

キーワード：医学教育部門 アイデンティティ

### 1. 研究開始当初の背景

医学教育は大学全体で推進するものであることは論を待たないが、そのかじ取りとして医学教育部門の役割は重要である。効果的に医学教育を統括・推進するため、わが国の大学医学部や臨床研修病院に教育/研修部門が設置されるようになり久しい。しかしそこで勤務する教員や専任スタッフは、医学の専門家であるが医学教育の専門能力を十分に有しているとは言えない。にもかかわらず、近年の教育/研修部門の責務は複雑で膨大になってきており、専任スタッフからは、不安と不満の声が噴出している。これでは我が国の医学教育の屋台を支える教育部門の有り方を揺るがしかねない状況が示唆されている。事実、近年の教育/研修部門と現場の専任スタッフが抱える困難には以下のようなものがあげられる。

学術的に専門化が進み、そもそも医学教育の理解が困難

教育効果を示す研究成果提示のプレッシャー

グローバルスタンダードを満たすための認証受審・カリキュラム大改造のニード

全国的な教育のトレンドに追従するためのプログラムの変更に基づく変更

導入が必須と指定された未知の科目を再学習し導入する必要性

全国規模の試験等における外部評価者としての準備と従事

学会からの教育関係業務を通じた貢献の期待

そのような課題を受けて、我が国の教育/研修部門の発展のために必要な検証すべき課題が見えてくる。

課題1 (マクロレベル): 医育機関における医学教育部門の不安定な位置づけ: 各医育機関の教育文化が未成熟な場合、教育/研修部門の位置づけが揺らぐ。例えば各医育機関が、教育よりも、臨床・研究を過度に重視する場合、教育は二の次という文化が形成されてしまい、教育部門の位置づけを危うくする。よって、医育機関における教育/研修部門の健全な設置が求められる。

課題2 (メソレベル): 教育/研修部門の機能と他部門との連携に関する不確実さ: 教育/研修部門の多くは役割が曖昧で、専任スタッフは兼務であることが多く、教育業務が十分遂行できない。また教育に関してあらゆるレベルの業務が増す一方、他の部門との協働体制が取れず、機能不全に陥りがちである。よって有機的な教育/研修部門と他部門との関係構築が必要である。

課題3 (ミクロレベル): 専任スタッフの発展途上の教育能力とアイデンティティ: 専任スタッフは、医学教育学を体系的に学べるフェローシップや修士課程で学べぬまま業務に忙殺され、適切に遂行できず動機と自己効力感が低下する。結果、教育者としての能力・アイデンティティ・キャリアが形成されない状況に陥る。スタッフの教育能力開発は根源的課題である。

前述の背景をもとにたどり着いた問いは、「医育機関において教育を効果的に推進できる教育/研修部門の規準、そしてその専任スタッフに必要な資質とは、どのようなものか?」であった。

### 2. 研究の目的

そこから研究の目的を設定した。主として、各医育機関において、教育/研修部門は、どのような目的と位置づけを有するか?そして教育/研修部門の役割と他部門との連携の現状はどのようなものか?を調査した。また専任教員は業務をどう遂行し、教育職アイデンティティをいかに変容させるのか?また成功する教育/研修部門と専任スタッフは、いかなる機能を果たしているのかを調査した。

### 3. 研究の方法

研究を通じて Web 調査、テキストマイニング、系統的文献検索、アンケート調査半構造化インタビューと様々な方法でデータをとることができた。全国の医学部の医学教育部門の教職員を対象としてデータをとることができた。

### 4. 研究成果

医学教育部門の専任スタッフからは、不安と不満の声が噴出していることを受けて、わが国の働き方を改革せんとする時代に必要な、成功する教育/研修部門及び専任スタッフに必要な機能と役割をモデル化し、教育/研修部門とスタッフの発展に向けた指針のプロトタイプを示唆することができた。結果は個別の研究課題においてオーバーラップする部分があり、かつそれぞれの関連性も強いので総合的な結果のみを以下のごとくに4項目に分けて示した。

- (1) 部門の概略・機能については、医学教育部門の概略に関する頻出用語は、カリキュラム・改善・国際認証・研究・国際、等であった。機能に関する頻出単語は、シミュレーション

ョン・地域医療・臨床研修・OSCE 等であった。近年の教育/研修部門の責務はますます複雑化し膨大になる一方である、この結果のように多彩な業務を担う医学教育部門が、どのような機能の変容を遂げるべきのかが次なる課題であるかもしれない。

- (2) 医育機関において効果的に医学教育を推進するため、大学医学部や臨床研修病院に教育/研修部門の陣容を明らかにすることができた。人員は、在籍教員平均人数は4.4人(女性11%)、職位は教授が52%を占めた。在籍補佐員平均人数は0.6人(女性42%)だった。人員・組織形態と、ミンツバークの組織コンフィギュレーション型に基づき分類すると、組織型としては、事業型、政治・専門・企業型が一部あり、機械型、イノベーション・ミッション型は少数だった。この背景としては、医学教育部門は、各大学のユニークな陣容で機能を果たそうとするためか、コンフィギュレーションは多様であったと推測される。コンフィギュレーションが形成される要素として、教育業務の学内分業体制、開発研究含むイノベーションを果たさんとするミッションの有無、教員の兼任/専任の相違・教員の特性等が挙げられるかもしれない。
- (3) 教育/研修部門の専任スタッフについては、業務をどう遂行し、教育職アイデンティティをいかに変容させるのかを探索した。ここまでのデータから得られた要因・規準を抽出し、最終的にはこれからの教育/研修部門のあり方を占うモデルのプロトタイプを同定できた。まず国公立の医学教育部門の機能の差異につき調査した共起ネットワーク結果としては、私立大学はよりFDという単語が頻出し、国公立大学では国際認証が多く抽出された。大学のミッションやビジョンに連動して、医学教育部門の方針も方向性に多様性が出ており、そのような方針に部門としても柔軟に対応するしなやかさが必要であるという認識は特記すべきであると考えられた。またOSCEといった実技試験や学内の医学教育業務を支援することはコアな機能であると多くが認識しているものの、それを“下請けする”のか、改革を含めて“先導する”のかは、ワークロードへの負担感や、教員のアイデンティティにも影響を及ぼしている。
- (4) 成功する教育/研修部門と専任スタッフは、いかなる要因・規準でモデル化できるかについても探索的に調査できた。医学教育部門に勤務する教員の役割は、すなわち医学教育部門の機能に相当するが、本研究チームから従来提唱されていた6つの能力(図1)よりも具体的なクライテリアが浮かび上がったといえる。これらは今後の新たな重要な資質・能力であるといえる。これらを推進する気概の有無はその教員のやりがいにもつながり、ひいては医学教育部門が活躍し教育業務を先導するリーダーとして認知されることに直結する。

教授内容に関する専門性と知識を有すること  
 学習者を指導する能力を有すること  
 コミュニケーション能力を有し、学習者や教職員との連携を促進できること  
 問題を解決する能力や調整力  
 組織の中でカリキュラムやイベントを推し進める構成員力  
 改革を促進調整するための推進・運営力  
 ワーク・ライフバランスを考慮した働き方改革  
 時代にふさわしい環境の設定力  
 元々の専門とする臨床医学や基礎医学の業務と医学教育の業務とのバランスをうまく保持しようとするワーク・ワークバランスの感覚  
 DX時代の医学教育を生き抜くための先を見据えたビジョン  
 しなやかに変革的時代を生き抜き取り組み続ける教育者アイデンティティ

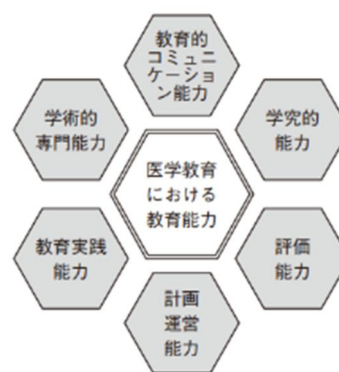


図1：医学教育者に必要な教育能力(2013,西城)

<参考文献>

- 1) Cantillon, P., D'earth, M., De Grave, W., & Dornan, T. (2016). How do clinicians become teachers? A communities of practice perspective. *Advances in Health Sciences Education*, 21(5), 991-1008.
- 2) Steinert, Y., O'Sullivan, P. S., & Irby, D. M. (2019). Strengthening Teachers' Professional Identities Through Faculty Development. *Academic Medicine*, 94(7), 963-968.
- 3) Khalid T.(2013).Faculty perceptions about roles and functions of a department of

- medical education. *J Coll Physicians Surg Pak*, 23(1), 56-61.
- 4) Kiguli-Malwadde, E., Talib, Z. M., Wohltjen, H., Connors, S. C., Gandari, J., Banda, S. S., Van Schalkwyk, S. C. (2015). Medical education departments: a study of four medical schools in Sub-Saharan Africa. *BMC medical education*, 15(1), 109.
  - 5) Batool, S., Raza, M. A., & Khan, R. A. (2018). Roles of medical education department: What are expectations of the faculty?. *Pakistan journal of medical sciences*, 34(4), 864.
  - 6) Saiki, T., Imafuku, R., Suzuki, Y., & Ban, N. (2017). The truth lies somewhere in the middle: Swinging between globalization and regionalization of medical education in Japan. *Medical teacher*, 39(10), 1016-1022.
  - 7) 西城卓也, 岡崎史子, 大戸敬之, 舩越拓, 三好智子, 吉田暁, 廣内大輔. (2021). 1. 医療者教育学を学ぶプログラムをデザインする. *医学教育*, 52(6), 497-502.
  - 8) 西城卓也, 田川まさみ. (2013). 医学教育に携わる人が備えるべき教育能力. *医学教育*, 44(2), 90-98.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Hayashi Mikio, Saiki Takuya, Kanter Steven L., Ho Ming-Jung	4. 巻 22
2. 論文標題 Leaders' perspectives and actions to manage challenges in medical education presented by the COVID-19 pandemic: a nationwide survey of Japanese medical colleges	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-022-03193-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Obara Haruo, Saiki Takuya, Imafuku Rintaro, Fujisaki Kazuhiko, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 21
2. 論文標題 Influence of national culture on mentoring relationship: a qualitative study of Japanese physician-scientists	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-021-02744-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Akamine Yoko, Imafuku Rintaro, Saiki Takuya, Lee-Jayaram Jannet, Berg Benjamin W, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 11
2. 論文標題 Physicians' perceptions of followership in resuscitation in Japan and the USA: a qualitative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e047860 ~ e047860
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-047860	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Imafuku Rintaro, Saiki Takuya, Hayakawa Kaho, Sakashita Kazumi, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 26
2. 論文標題 Rewarding journeys: exploring medical students' learning experiences in international electives	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medical Education Online	6. 最初と最後の頁 e1-e9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10872981.2021.1913784	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西城卓也, 今福輪太郎, 恒川幸司, 淺田義和	4. 巻 51
2. 論文標題 パンデミック下の医学教育-現在進行形の实践報告-Post COVID-19時代の医療者教育における新たな再考 テーマ:医療者教育学修士課程の实践から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 351-353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 3件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西城卓也、清水郁夫、淺田義和、恒川幸司、早川佳穂、川上ちひろ、今福輪太郎、松山泰
2. 発表標題 ニッポンの医学教育部門：組織コンフィギュレーションの視点から
3. 学会等名 日本医学教育学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西城卓也
2. 発表標題 Covid19感染予防に配慮した医療者教育
3. 学会等名 第25回日本遠隔医療学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西城卓也
2. 発表標題 医療者教育理論のレンズから見る在宅医療の效果的指導のノウハウとは？
3. 学会等名 第三回日本在宅医療連合学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西城卓也
2. 発表標題 医療従事者の協働するチカラを育む組織内の推進力を促進させる教育セオリーのエッセンス
3. 学会等名 第64回日本感染症学会中日本地方会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今福 輪太郎 (Imafuku Rintaro) (40649802)	岐阜大学・医学部・助教  (13701)	
研究分担者	川上 ちひろ (Kawakami Chihiro) (50610440)	岐阜大学・医学部・助教  (13701)	
研究分担者	恒川 幸司 (Tsunekawa Koji) (70556646)	岐阜大学・大学院医学系研究科・准教授  (13701)	
研究分担者	早川 佳穂 (Hayakawa Kaho) (80815267)	岐阜大学・医学部・特任助教  (13701)	
研究分担者	鈴木 康之 (Suzuki Yasuyuki) (90154559)	岐阜大学・医学部・特任教授  (13701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------